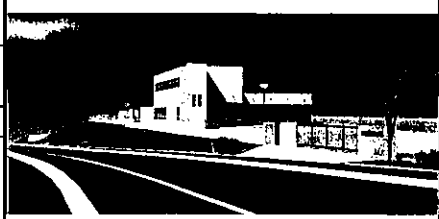


# CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)新学校給食センター	階数	地上2F
建設地	京都府木津川市	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	70人
地域区分	5地域	年間使用時間	1,600時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年2月 予定	評価の実施日	2018年10月18日
敷地面積	14,800 m <sup>2</sup>	作成者	大河内
建築面積	2,386 m <sup>2</sup>	確認日	2018年10月22日
延床面積	2,982 m <sup>2</sup>	確認者	梅原



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2** ★★★★★☆☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 86% (40 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の 85% (40 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

④上記+ 85% (40 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

**Q のスコア = 2.9**

##### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

##### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

#### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.3**

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
HASAPPの概念に基づき、一方通行の動線と明確な衛生区分を確保した施設計画としている。機能的・効率的な屋外動線を含めた土地利用計画としている。計画地に隣接する住宅地に配慮し、臭気、騒音等の影響が最小となるように配慮し、見学スペース、展示コーナーを設け、地域の方々や子ども達と食事の大切さを考える食育の拠点となるような施設を目指している。		
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>
施設内は全面禁煙であり、建物全体にF☆☆☆☆の建材を使用している。	調理室内は、常に清潔に保つ必要があるため、埃だまりを作らず、清掃しやすく清潔を保ちやすい、維持管理のしやすい施設としている。	建物周辺は、害虫等の発生を防ぐため、植栽はせず、道路沿いのみ植栽を施し、まちなみと景観に調和した計画としている。
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>
太陽光発電を設置し、照明灯はLEDを採用している。	鉄骨造のため、部材の解体・分別、再利用が可能な建物となっている。	太陽光発電を設置し、地球温暖化へ配慮している。駐車場は十分に配置し、建物周辺を配送車は、一方通行で走るため、周辺道路の渋滞等の影響はない計画としている。また、屋外照明は極力少なくし、屋外広告は設置しない。また、光害のない計画となっている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ライフサイクルCO<sub>2</sub>とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、資源などの項目の評価結果から自動的に算出される